

第6学年国語科学習指導案

日 時 平成28年1月28日(木) 5校時

授業者 担任・司書教諭・学校司書

場 所 今市っ子図書館

- 1 単元名 わたしたちの町の未来を、プレゼンテーションで提案しよう
(教材 『町の幸福論—コミュニティデザインを考える』東京書籍 6年)

2 単元の目標

○自分たちの町の未来に関心をもち、教材文や本、資料を読んで、その内容を相手に伝えようとしている。
【国語への関心・意欲・態度】

○目的に応じて、話の構成を工夫し、場に応じた適切な話し方で話している。

【話すこと・聞くこと】

○話し手の考え方を理解し、自分の意見と比べながら聞いている。

【話すこと・聞くこと】

○本や文章を読んで、考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

【読むこと】

○目的に応じた文章の構成について理解することができる。

【言語に関する知識・理解・技能】

3 基盤

本教材は、近年注目されてきた「コミュニティデザイン」について述べられた文章である。また、序論・本論・結論の構成が明確で、序論部分でコミュニティデザインの必要性についての意見を述べ、その実践の具体例を本論部分で述べ、本論部分を受けて再度主張を結論部分で述べていることから、双括型の構成とみることができる。これは、児童が行うプレゼンテーションの効果的な構成につなげることができる。さらに、写真や図表の資料が用いられており、プレゼンテーションでの資料の活用へとつなげることもできる。

本単元では、学習指導要領の5・6学年に示されている、B話すこと・聞くこと(1)イの「目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じて適切な言葉遣いで話すこと。」、エの「話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。」、C読むこと(1)オの「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」をねらいとしている。そこで、いろいろな地域で行われている町作りについての本や資料を読んだり、インターネットを活用したりして調べ、プレゼンテーションを行うという言語活動を位置づけた。二次で学んだ文章構成や資料の活用方法を生かして、三次では資料などを活用しながら情報を収集する。本だけでなく、自治体から出されている町づくりに関する広報誌なども活用しながら、自分たちの町の「よいところと困っているところ」や「今とこれから」を意識しながら、教材文で読み取った「人と人とのつながり」をつくるという観点を基盤に、プレゼンテーションに活かせる情報を収集する。グループでの話し合いを通して必要な情報を取捨選択して構成を考える。また、二次で学んだ資料の効果的な使い方を振り返りながら、資料を効果的に使うための工夫についても話し合わせる。自分たちの

発表構成や提案に説得力があるかどうかということ意識しながら、グループ内同士で聞き合う練習を行う。そして、相手意識をもたせるために隣のクラスの友だちにプレゼンテーションを行うことで、自分の考えを広げたり深めたりする力を身につけられると考える。

本時は、違うグループ同士で提案内容や構成を確かめ合う活動である。前時までの学習で、取り上げる事例の内容や必要な資料、順番などを話し合ひで、プレゼンテーションを構成している。話し手は、資料を効果的に活用しながら考えを説明して、自分たちで考えてきた内容や構成で、プレゼンテーションの意図が伝わるかを確認する。聞き手には、あらかじめアドバイスのこつを示しておく。まずメモを取り、初めて知ったことやよいところを見つけながら聞く。次にもっと知りたいことや確認したいことについて質問をする。そして話し手自らが課題解決につながられるような助言をする、という流れになる。確かめ合う活動の中で、参考になるアドバイスや直したいことについては、付箋に書き残していくようにする。話し手は、助言してもらったことをもとに、よりよい発表にするための話し合いをすることで、プレゼンテーション本番に向けての意欲が高まるであろうと考える。伝え合う活動が終わったら、助言を受けての話し合いを行い、次時の学習につなげるようにする。

4 本単元と情報リテラシーとの関わり

【つかむ】

本単元を貫く言語活動である「わたしたちの町の未来を、プレゼンテーションで提案しよう」という単元のゴールを最初に示すことで、学習の見通しをもたせる。また、司書教諭によるプレゼンテーションを見ることを通して、プレゼンテーションのイメージを膨らませ、活動への意欲を高める。

学校司書による関連図書資料紹介を通して、コミュニティデザインや町作りへの関心をもち、進んで調べようという意欲を高める。

【さがす・えらぶ】

学校司書や司書教諭と相談して、児童が調べたいテーマに合った資料に出会えるようにする。

教材文の学習を進めながら、コミュニティデザインや町作りに関する関連図書資料の並行読書を行う。インターネットを活用しても情報が得られるようにするために、信頼できる情報かどうか見分ける方法について確認する。

調べた情報を要約したものや出典を、「事例カード」に書くようにする。

【まとめる】

まとめる第一段階として、座標軸を用いて「事例カード」の情報を分類し、取り上げる情報について絞り込んでいく。第二段階として、グループ内で情報を確かめ合い、発表の構成を組み立ていく。第三段階として、グループ同士で提案内容や構成を確かめ合う。そして必要な写真や図表などの資料を作成して、学年間でプレゼンテーションをし合い、情報の活用の仕方や効果的な資料の使い方などについて振り返りを行う。

5 学校図書館活用教育との関連

教材名	単元のねらい
イースター島にはなぜ森林がないのか	事実と意見を区別しながら文章を読み、それに対する自分の考えをもつ。
町の幸福論ーコミュニティデザインを考える	複数の資料から読み取った情報を、目的に応じて活用する。
プロフェッショナルたち	書かれた人物の生き方から、自分の将来の夢や生き方を考える。

- ・学校図書館図書資料を活用。
- ・学校図書館での学習を行う。
- ・学校司書による図書資料の紹介。
- ・司書教諭によるフリップの活用指導。
- ・インターネットの使い方指導。

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
自分たちの町の未来に関心を持ち、プレゼンテーションをするという学習課題に取り組もうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの構成を工夫し、取り上げる事例と考えたことや伝えたいことを整理して、場に応じた適切な話し方で話している。 ・話し手の意図をとらえながら説明や提案を聞き、助言をすることができる。 	コミュニティデザインに関する本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。	目的に応じた文章の構成を理解している。

7 単元の指導と評価の計画（全14時間）

次	時	目標	学習内容	評価				学校図書館との関連	
				関	話・聞	読	言		
第一次	1 2	○コミュニティデザインに関心をもち、単元の見通しをもつことができる。	○コミュニティデザインや町作りに関する図書資料を読む。(学校司書による本の紹介) ○プレゼンテーションの仕方を知る。	並行読書(コミュニティデザインの本や資料)	○				○



第二次	3 4 5 6	○プレゼンテーションを行うという目的を踏まえ、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえ、自分の考えを明確にしながら読むことができる。	○教材文を読み取り、文章構成図に整理する。 ○写真・図・表の効果的な使い方を知る。 ○文章の要旨を読み取り、筆者のメッセージを踏まえて、町の未来について自分の考えをもつ。			○	○	<p>【読】文章構成や内容を押さえて、要旨をとらえ、自分の考えを明確にしながら読むことができる。(発言、ノート、ワークシート)</p> <p>【言】目的に応じた文章の構成を理解することができる。(発言、ノート、ワークシート)</p>	
第三次	7 8 9 10 11 12 本時 13	<p>○提案する未来の町の姿を決め、必要な情報を集めることができる。</p> <p>○グループ内で、集めた情報を整理することができる。</p> <p>○提案内容や構成について考えを出し合うことができる。</p> <p>○「構成シート」をもとに、提案内容を互いに確かめ合うことができる。</p>	<p>○プレゼンテーションの準備の計画をたてる。</p> <p>○教材文で読み取ったことをもとに、提案する未来の町の姿をグループで話し合う。</p> <p>○必要な情報を集め、「事例カード」に書く。</p> <p>○座標軸を用いて、調べた情報をグループ内で絞り込んでいく。</p> <p>○グループ内で、「構成シート」にまとめる。</p> <p>○よりよい提案内容にするために、互いに質問や助言をし合う。</p>		○			<p>【話・聞】聞き手に意図が伝わるように、話の構成や資料の見せ方を工夫して話したり、話し手の意図をとらえて自分の意見と比べながら聞いたりすることができる。</p> <p>(「構成シート」、「事例カード」ワークシート、プレゼンテーション)</p>	○

14	○学年間で効果的なプレゼンテーションをし合いうことができる。	○町の未来に関する学年間プレゼンテーションをし合い、感想を交流したり振り返ったりする。						
----	--------------------------------	---	--	--	--	--	--	--

8 本時の学習（第三次 12時間目）

(1) 本時の目標

「構成シート」をもとに、グループ同士で提案内容を伝えたり、助言し合うことができる。

【話す・聞く能力】

(2) 本時の学習展開

時間 (分)	主な学習活動と予想される児童の反応	教師の支援 (○) と評価 (☆)
10	1. 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> アドバイスし合って、よりよいプレゼンテーションにしよう。 </div>	○本時の流れを示すことで、学習の見通しをもてるようにする。 ○司書教諭が、アドバイスのこつ「共感→質問→助言」について説明する。 ○自分が使った図書資料を準備しておくことで、必要な時に使えるようにする。
30	2. グループ同士で発表し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・言いたいことが伝えるように、順番に気を付けて発表しよう。 ・タイミングに気を付けて資料を提示しないとな。 ・聞き方の視点を意識しながら聞こう。 ・提案内容と取り上げた事例がつながっているといいな。 ・使っていた資料は表だったけど、グラフにした方が分かりやすいと思うよ。 	○聞き手は、聞きながらメモをとるように促し、こつの流れに沿って助言することを伝える。 ○助言してもらったことで、付け足しや調べ直しが必要なことは、付箋を使って書き足していくようにする。 ○助言をもとに提案内容について再度話し合うように促す。 ☆聞き手に意図が伝わるように、話の構成や資料の見せ方を工夫して話したり、話し手の意図をとらえて自分の意見と比べながら聞いたりすることができる。（「構成シート」、「事例カード」ワークシート、発表）
5	3. 学習の振り返りと次時の見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの発表を聞いて、情報の集め方が少し足りないことが分かったよ。 ・もう一回話し合ってよりよいプレゼンテーションにしていきたいな。 	○次時は、学年間プレゼンテーションに向けての準備を進めることを伝える。

(3) 本時の評価

十分満足と判断される児童の具体例	おおむね満足と判断される児童の具体例	支援を必要とする児童の指導の手立て
事柄が明確に伝わるように伝えたり、話し手の意図をとらえながら聞いて、適切な質問助言をしたりすることができる。	提案内容を伝えたり、話を聞いて助言したりすることができる。	支援者と一緒に内容を確認しながら話すようにする。

(4) 研究の視点

構成シートを用いてグループ同士でプレゼンテーションの仕方を確認し合ったことは、効果的な資料の活用や提案内容を深めるのに有効であったか。